

活動報告——平成二十六年

第三回例会 九月六日

・宋代における寺院茶会の研究——『神苑清規』を中心として 趙 亜男

・『辺境から訪れる愛の物語』の翻訳について 小島 久代

第四回例会 十二月六日

◇平成二十六年四月二十六日(土)に第三十三回大会を開催した。大会終了後総会を開き、平成二十五年度の会務、会計報告を行った。

・从逻辑学角度浅析“既然P、就Q”与“如果P、就Q”的异同与相互转换 王 芸嫻

◇同日付で会誌『お茶の水女子大学中国文学会報』第三十三号を発行した。

・テアル形に相当する中国語表現 齋藤 萌

——平成二十六年度例会記録——

第一回例会(大会) 四月二十六日

・敦煌写本「醜女縁起」について 郝 静

伊藤 美重子

・永井荷風『下谷叢話』を読む 和田 英信

第二回例会 七月五日

・鍾梅音の散文にみられる“家庭主婦”の意象 天神 裕子

・柴静著『中国メディアの現場は何を伝えようとしているか』翻訳出版を巡って 杉村安幾子・河村昌子

卒業論文・修士論文題目

平成二十六年年度三月卒業（七名）

雨夜 のぞみ “手”の形を含む漢字についての一考察―『説

文解字注』をもとにして―

石丸 由子 李白の月と杜甫の月―月との心理的距離につ

いての考察―

鈴木 涼子 敦煌歌辞「百歳篇」について

水田 麻美 中国語における色彩語について―“青”に関

連する色彩語を中心に―

村上 彩 『史記』における項羽の形象について―項羽

本紀を中心に―

高山 恵梨華 蛇の変遷

鄧 翔心 “得”の後が主述構造である様態補語文の統

語構造についての考察

平成二十六年年度三月修了（五名）

朱 珊 閉ざされた女性たち―張愛玲前期研究

迫田 博子 詩にみる程顥の世界観

森田 さくら 敦煌写本『葉浄能詩』研究―説話の構造を

巡って

姚 佳利 李清照の人間像について

鵜 越凌 中国語擬声語の動詞化について